

平成 24 年度第 5 回 庄原市斎場再編整備検討委員会 議事録

日 時 平成 24 年 12 月 25 日(火)13:30~15:30

場 所 庄原市ふれあいセンター 2 階 中会議室

出席委員 野原建一委員 住田鉄也委員 榎 英子委員 貝崎若子委員 藤谷善久委員 堂本時和委員
安川 保委員 徳山副夫委員 後藤信房委員 渡邊耕三委員 佐々木 聖委員 武田和仁委員

欠席委員 藤原一成委員

事務局 矢吹副市長 光永幹夫課長 福本敬夫主任主事 吉岡賢治主事 (市民生活課)

1 開会

事務局 委員の皆さん、お忙しいところ、また雪で足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。
ございます。

ただいまの出席委員は 12 名で、半数以上の出席をいただいております。庄原市斎場再編整備検討委員会設置要綱第 6 条第 5 項の会議開催要件を満たしていますので、これより第 5 回の検討委員会を開催したいと思います。

なお、この会議は公開となっています。議事内容についても、公表が原則となっていますので、会議の内容については、録音し議事録を作成しますので、ご承知いただくとともに、発言いただく際にはマイクを使用いただくようご協力をお願いします。

開会にあたり、野原委員長からあいさつをいただきます。

2 委員長あいさつ

野原委員長 みなさん、こんにちは。

第 5 回の庄原市斎場再編整備検討委員会でございます。皆様にご承認いただきましたアンケートを実施いたしまして、今日はその結果についてご審議いただき、そして、斎場の再編の方向性について併せてご議論いただきたいと思います。よろしくお願いします。

3 資料確認 (不備等がないことを確認する。)

4 協議事項

事務局 これから先の進行については、要綱により委員長が議長を努めていただくこととなっておりますので、委員長の方でよろしくお願いします。

野原委員長 それでは議事を進めさせていただきます。まず、次第の協議事項 3 の(1)ですが、アンケートの結果について事務局でとりまとめておりますので、ご説明をよろしくお願いします。

(1)アンケートの結果について

事務局が資料 6 により説明

事務局 アンケートは平成 24 年 12 月 6 日から 17 日まで市内各自治会等の会長様を対象に実施いたしました。配布数は 200 部であり、回収率は 140 部、70%となりました。分析方法については、一つの回答を求めている設問も、設問内容によっては複数回答が適切であったことから、すべての回答をカウントし結果に反映させております。

問1の「地域の方がよく利用される斎場はどちらですか」という質問については、各地域においてそれぞれの地域内の斎場を利用する傾向にありました。また、特徴的な所ですと、西城地域では東城斎場を利用される場合があること、総領地域では庄原市斎場あるいは市外の上下斎場を利用される場合もあることが分かります。

問2の「葬儀はどこで行うことが多いですか」という質問についてです。庄原地域では民間の式場が2社あることもあってか、民間の式場で行うという方が多いようです。東城地域では、公営の式場である平安の森を利用される方が多いようです。その他の地域ですと、依然として自宅が多く、続いて集会所が多いという傾向がありました。

問3の「葬儀（葬儀の一部）を民間業者に依頼する場合、受けるサービスはどのようなものですか」という質問についてです。全体的な傾向として、式の進行、会場準備、料理を業者に依頼する方が特に多く、続いて通夜の準備や移動手段の手配も依頼される方が多いようです。

問4の「葬儀を行う式場を利用する場合、最も重要視することは何ですか」という質問についてです。全体的には、利用料金や利便性である移動時間を重視される方が多いようです。

問5の「火葬を行っている間の食事はどこで行うことが多いですか」という質問についてです。問2と同様の傾向がありまして、庄原地域では民間の式場を、東城地域では公営の式場である平安の森を利用される方が多いようです。その他地域ですと、自宅あるいは集会所で行う傾向にあります。

問6の「遺族・親族の斎場までの主な移動手段は何ですか」という質問についてです。いずれの地域でも貸し切りバスが特に多く、次に自家用車を使われる方が多いようです。

問7の「自宅や地域での葬儀が難しくなっていると思いますか」という質問についてです。地域別に多少の特徴はありますが、全体的には困難になってきているという意見が多くありました。

問8の「再編によって施設の数が削減される場合、移動距離が長くなるとともに身近な斎場が利用できなくなることが予想されます。その場合、利用する斎場に最も必要と考えられる機能、サービス、立地条件などは何ですか」という質問についてです。以下の4つの側面について回答いただいています。まず、機能面については、食事が行える部屋、葬儀・告別式が行える部屋が必要との声が多くありました。続いて、サービス面については、他家の顔を合わさないプライベートな空間作り、高齢者や子どもにやさしい施設を望むという声が多くありました。立地条件面については、多かった回答は主要道路が整備されているアクセスの良い場所でした。市街地付近がいいのか、自然環境が良く人家の無い場所がいいのかという点については意見が分かれました。その他については、50台以上駐車可能な広い駐車場、安価な利用料金を望む声が多くありました。

最後に自由記述で回答いただいたものの中から、中心的な意見を3つ紹介させていただきます。1点目として、高齢化による人手不足から、斎場には葬儀から火葬まで一体的にできるものを望むという声が多くありました。2点目として、気持ちの安らぐ施設であることを期待する、そうした立地や従業員の対応、十分な清掃をしてほしいという意見がありました。3点目として、特徴的な意見ですが、高齢の会葬者や関係者にとっては移動時間が長いのは大変であって、施設の機能充実よりも移動距離が優先されるという意見が多くありました。

こうした貴重な意見をいただきましたので、これを元に今後の議論を進めていきたいと思
います。

(発言は要点のみ記述)

野原委員長 ありがとうございます。只今、事務局からアンケートの集計内容について、結果から
言えることについて説明がありました。これについての委員の皆様の見解、あるいはアン
ケート集計についての質問について伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

【質疑・意見交換】

委 員 立地条件で主要道路が整備されているアクセスのよい場所、便利の良い所がいいという
意見が多いようです。これは火葬場を作る上で大いに参考になると思います。あまり山の
奥や人里離れた所ではなく、昔の嫌われている施設としてではなく、条件の良い所でやっ
た方が、色んな所から来やすいと思います。

委 員 アンケートの結果を見させてもらおうと、豪勢な施設を作らなくても、火葬だけしてもら
えればという記述もありました。そうしたことも考えた方がいいと思います。

野原委員長 特に財政が厳しいところで、できるだけ安い火葬のみの機能でいいのではないかと
いう意見です。また、以前の検討委員会におきまして、民間業者に圧迫を与える形は好ましく
ないのではないかと意見もありましたが、公営の施設はある程度役割を限定していく
のも一つの考え方であるという指摘ともとれます。

委 員 先日葬儀がありました。この時期は火を焚いて地域の組合の方が頑張ってやっておら
れました。また昨日ありました葬儀では、通夜は近くでして葬儀は民間の業者を利用しま
した。アンケートを見ますと、まだ自宅で葬儀をされる方もおられます。徐々に業者へお
願いする方も増えてきました。

個人的な意見ですと、葬儀は自宅あるいは民間にお願いして、斎場で火葬を待つ場合、
仕上げまでできるスペース、高齢者や子どもが安らぐ場があればいいと思います。式など
全てを行えなくても、火葬ができるまで安心して食事などが行える場所があればいいと思
います。そうすれば民間の業者も困らないのではないのでしょうか。

委 員 葬儀そのものについての考えについては統一されていません。私たちがここで議論しな
ければならないのは、まず再編の問題。それから、先般に友人の死去にあいまして、庄原
市斎場に行きましたが、一緒に行った女性はある所で焼くのは気の毒なので、西城に連れ
て帰るわけにはいかないかという話もありました。庄原市斎場が非常に傷んでいるとい
うのは誰の目にも明らかであり、庄原市斎場を一刻も早く建替えるというのは大きな問題で
す。

葬式の意識はそれぞれでしょうから、民間に依頼するとしても受付等で常会としての役
割はまだあります。仕上げの問題は斎場に備えてあるのが良いと思います。とにかく、斎
場の再建を早くやるべきだと思います。

委 員 先日、斎場で火がつかなかったという事がありました。何にしても機能しなければなら
ないので、立派な施設よりシステムと管理運営に力を入れていただきたいと思います。式
等については、地域の状況もあると思いますし、地域に余力がある所もあると思います。
何にしても斎場の機能を果たすといえますか、炉も2つ程度あって、何かあった時には片
方が使えるといったような形態にしていきたいと思います。

委 員 高野です。先般、12月に4件の葬儀がありました。学校の体育館で3件、お寺で1件で

した。自宅で行うことは少なくなっているように思います。高野は雪が降りまして難儀をしましたが、やはり距離感ですよね。再編で高野から庄原に行くことになると、その場所で食事等もできるようにしてもらわないと、片道1時間くらいかかりますので大変ですので、そのあたりも考慮していただきたいと思います。

委員 2つの側面があると思います。1つは、庄原市斎場を早急に何とかしなければならないこと。もう1つは再編の問題でして、何箇所にするかを整理していかなければ話が進まないように思います。

委員 アンケートを読ませていただいて、庄原の方は古いからとにかく建替えたいという声が多いのですが、それ以外の地域では再編ということになってくると、移動の問題が書いてあるように感じました。庄原市斎場の建替えについては問題が無いように思いますが、再編という部分は3箇所なり4箇所なりという所をしっかりと議論していかなければならないと感じました。

委員 今ありました意見に同意見でして、広報紙での啓発もありましたが、まだまだ市民の方に再編の趣旨を理解してもらうのには時間がかかるのかなと思いました。現在の庄原市斎場については早急な整備が必要であると思います。移動距離はこのアンケートを見ると、30分から40分の移動であっても高齢者にとっては大変で、参列者が少なくなると人生の終焉が再編によって崩れてしまうのかなと思いました。こうした意見も考えていかないといけないと思います。

委員 地域によって色々課題はあると思いますが、施設は多目的に使えるようにしておけば、業者であろうと組内であろうと応用ができると思います。それと、庄原市斎場の建替えは早急に行わなければならないのですが、財政が厳しい中で今後運営コストがかかるような形はとりにくいと思います。しかしながら、暑い時や寒い時に快適に過ごせる程度の施設ではあるべきだと思います。

野原委員長 全体の意見を伺いましたが、再編を行っていく中で、庄原市斎場の現状の厳しさから再建はやむを得ないこと。公営の斎場の役割は、高齢者や子どもがある憩ゆるような施設、そして食事・火葬ができる施設であること。足らない部分は民間業者に委託すること。再編する場合でも、1時間以上かかるような距離ではなくて30分から40分程度にできないかということ。こうした意見で集約できるように思われます。

委員 今回アンケートを行ったことで、各自治会で話が出てきております。アンケートでは庄原市は西日本最大の地域であるため、再編どころでなく現在の施設を修理してやっていくようにという声もありました。しかし、人口減少、高齢化、厳しい財政状況の中で、再編についての方針を委員会ですっきりと出していかなければならないと思います。今後も自治振興区連絡協議会等の中でもご協議いただく場を持っていただければと思います。

野原委員長 アンケートの結果については、各委員の意見や地域の特性を踏まえまして最大公約数の所で取りまとめさせていただきたいと思います。その中では、庄原市斎場の再建が急務であること、他の地区を取り込んだ形で再編をしていくのはやむをえないこと、厳しい財政状況について運営コストを考えなければならないこと、これらを踏まえて慎重に議論していくことが大切になるかと思っています。このアンケートの結果を尊重しながら、再編の方向性について議論をしていきたいと思っております。

それでは、協議事項の(1)アンケートの結果についてはこれでよろしいでしょうか。ご意見はありませんでしょうか。

(2) 斎場再編の方向性について

野原委員長 では、続いて協議事項の(2) 斎場再編の方向性について事務局から説明をお願いします。

事務局が説明

事務局 これまで検討委員会では、斎場再編についてご協議いただいております。第1回では、庄原市斎場再編計画の案についてご説明し、今後の庄原市の斎場をどうしていくかという議題を提案させていただきました。その中で、庄原市の斎場には老朽化を含め様々な課題があること、将来の人口予測、死亡率予測から庄原市全体に必要な火葬炉は5基であること、これに基づいて斎場の箇所数を考えていくと、いくつかの再編パターンも提案させていただきました。また、施設の現状を知っていただくために庄原市斎場、西城斎苑、東城斎場の視察、近隣市町の参考として三次市斎場の視察を行いました。更に、アンケートについては先程ご議論いただいたところがございます。庄原市斎場の再建については異論のないところがございます。この時に市全体の再編をどうしていくかということについて、具体的に何箇所か良いのかということ、難しいとは思いますがその方向性について皆様のご意見を頂戴したいと思います。

野原委員長 わかりました。第1回目の検討委員会での資料にありましたが、図で指し示したパターンをご覧いただきながらご議論いただきたいと思っております。また、事務局からありましたが、3つの既存の斎場を見学しました。さらに、新設されました三次市の斎場を見学する中で、今までの斎場のイメージが変化してきているのではないかと思います。庄原市の斎場の再編を考える上でも非常に参考になったのではないかと思います。これらを踏まえまして、改めて皆様のご意見を賜りたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

【質疑・意見交換】

委員 最初の資料でパターン3がありますよね。庄原市はかなり広域ですし、高野や比和などの場所的な問題のこと、また東城は施設を活かしていこうと思うとつぶすわけにもいきません。そうするとパターン3くらいが落ち着きやすい条件ではないかと思います。高野の斎場が古くなったと言われれば改修して、庄原市斎場と2つを建替えるのが良いのではないのでしょうか。他の施設は使えることは使えるまで使って、ランニングコストがかかるようになれば廃止とすればいいのではないのでしょうか。

野原委員長 ただいま言われましたのは、パターン3の図でいかがだろうということです。庄原市斎場を新しくする、東城は比較的住民から好まれている施設を残す、それから高野あるいは比和・口和など庄原から離れている場所は1箇所ですべてやっていると。ただ、現在も斎場は残っておりますので、稼働できる所は役割を終えるまで稼働し、その後は新しいものに統合されていくという形です。

委員 最終的にはパターン2となる方向がいいと思っております。ただし、先程ありましたが現状をみますとまずパターン3でいって、将来的にはパターン2となっていくのではないかと思います。といいますのは、比和の自宅から庄原まで22~23分で来れます。合併後8年を経過しておりますので、庄原市比和町・庄原市高野町という旧町毎の枠をとっぱらった距離感を検討していった方がいいと思っております。ですので、将来的にはパターン2となるのが理想ではないかと思います。

野原委員長 今言われましたのは、先程ありましたがパターン3の方がいいかもしれませんが、やがてはパターン2の方向に集約されていくのではないかと思います。

委員 場所の事以外に気になることがありますので質問させていただきます。東城では、親戚が火葬場に行って仕上げをしたいと思います、組合の仕上げはどのタイミングで行われるのでしょうか。

委員 東城で通常されている流れを説明いたします。まず、自宅から斎場に棺を1時間前に移動しまして、そこから1時間くらいの式があり、その後火葬棟に移動されます。火がついてから遺骨ができあがるまで1時間半から2時間ほど時間がかかりますから、その間斎場の食事をする部屋「平安の間」で親族の仕上げがあります。そこで式そのものは業者が行いますが、弁当の注文とか車の手配は葬式組合が行います。仕上げの開始は組内が司会を始めまして食事に入っていきます。そのうち、組内の作業が一段落しますので、途中から親族の食事に合流し、一緒にいただくということになります。遺骨ができあがりますと、そこをしまつて骨拾いに行きますが、組内は代表が何人かいくだけです。また、組内のほとんどは棺に同行して斎場に向かっておりまして、自宅には留守番係が1人か2人が残ります。

委員 私はパターン3に賛成です。東城は新しいですし、高野は冬の積雪状況を考慮すると残しておいた方がいいと思います。そして、庄原を新しく建設するという事です。

委員 パターンから言うとパターン3ですが、先程将来的にパターン2にするとすると、高野から庄原にどうやって出てくるかなと思って考えていました。特に冬季の事を一番に思います。あと、アンケートの中の各地域の意見を見ておりますと、再編という所で考えていかなければいけないのですが、意見の中に再編を行政的な所で合理的に考えるのがいいのかという意見にひっかかっております。検討委員会の委員として再編を本当に成しえるのかなと思っておりましたが、パターン3くらいであればなんとか説明がつくのではないかなと思っております。

委員 先程もありましたが、合併したとはいえまだまだ合併できてないというのが正直な所です。再編というのが財政的にも必要であるためこのような議論になってきていると思います。ですので、パターン3くらいで考えて、ゆくゆくは更に再編ということで話を進めないといけないのではないかと感じております。

野原委員長 だいたい皆様の意見がパターン3あたりが良いのではないかとということでございます。先程ありましたが、現在ある施設は引き続き稼働いたしまして、やがては廃止になっていく。そして最終的にはパターン3の形となっていくのではないかとということです。更に言えば、将来的にパターン2もあり得るのではないかと意見もあります。ほかにいかがでしょうか。

委員 たぶんパターン3が皆様望まれていると思いますが、先程ありましたが施設が新しい所と古い所とありますので使えるものはうまく使いながら、何年後にはこういう形にするという路線でいかないと難しいと思います。

委員 西城の場合は、三坂の方から西城の中心まで20kmくらいあります。ですので、庄原まで出てくるのは大変だと思います。したがって東城に行かせてもらいたいというのが意見としてあります。それから葬式のあり方については、昔結婚式のあり方について生涯学習で学んだように、新しい文化として生涯学習の中で1年間くらいかけて地元と話をしていきたいと考えております。再編については、先程ありましたが将来的にパターン2となると高野には気の毒と思いますが、1つにすれば西城の三坂も同じ状況になりますので、東城を活かしてもらって再編をお願いしたいと思います。

委員 今からの葬式のやり方はどのようになっていくのでしょうか。うちの方でも家族葬というの最近ありました。寂しいという声もありますが、こういうものが今後出てくる気がします。

再編については便利のいい所に行政が決めてしまえば従わないといけないかなとも思っています。1箇所は考えられませんが、2箇所ということで行政が決めてしまったということになれば、例えば工業団地の方につくってしまったということがあっても、便利のいい事をしてあれば使うことになるのではないのでしょうか。今理解しやすいのはパターン3ですが、パターン2というのも必ずしも外れではないと思います。

委員 東城の場合は恵まれた状況でしてあれこれ言う立場にありませんが、丸く収まればいいかなと思います。

委員 具体的なパターンが出てきたわけですが、三次市の状況を見ますと、近い将来一つにするというすばらしいニーズ集約ができたなと思います。庄原市の場合はアンケートにもありましたように、広いということを考えましても将来的にはパターン3でいいのではないかと思います。同時に再編ということに踏み込みますと、三次のような16億かけた施設、これのスマールであるような施設になるかもしれませんが、きちっとした施設を整備していかなければならないということです。これは非常に費用がかかってくる、市の財政とランニングコストを考える必要があるため、実際はパターン3くらいの中で進めていかなければならないと思います。

野原委員長 皆様のご意見を伺っておりますとパターン3ということところが集約しやすいのかなと思いますが、事務局はいかがですか？

事務局 説明を補足する形になりますが、今パターン2とパターン3での論議が出ております。再確認しておきたいのは、パターン2の場合は、東城斎場の2基を活かす、そして濁川なのか川北のあたりに炉を3基を有するものを整備していくという案です。パターン3の場合は、現行の庄原、東城、高野の斎場を活かす中で、庄原は炉を2基有するものを新たに建てるという案です。これは市の方から1つのモデルとして定めたパターンでございます。

また、庄原市斎場を建替える中で、市としてはパターン2ならば新しい所に、パターン3ならば現在地を想定しています。式場をどうするかというのは市としては提案しておりません。先程ありましたが、葬儀のあり方を含めて式場を整備するのかという事でパターンの検討をいただきたいと思います。最終的には、再編をどうするか、庄原市斎場をどうするような整備とするのかということでご論議いただきたいと思います。

野原委員長 ということで、だいたいパターン3でございますが、他に細かくいいますと炉の数等もでございます。見学いたしました三次は5基でしたが、庄原市斎場の場合は2基でいいのか3基でいいのかといった議論も今後なされていかなければならないと思います。とりあえずは庄原市の広い地域をどのように分割していけばいいのかということは、現在の庄原周辺と、高野・口和・比和のあたり、東城と場合によっては西城の一部、そういった3つに分解をした再編の方向があるのではないかと思います。あと、高野は場合によっては庄原に続いて補修する必要があるかと思いますが、そういった事も含めまして3つの斎場に再編することができるのではないかと思います。

委員 西城の場合では、パターン2でもパターン3でもいいと申し上げましたが、残った施設の撤去は行政が責任を持って撤去していただけるのでしょうか。

事務局 行政が責任を持って撤去します。

事務局 補足しますと、今現在一番古いものは昭和 50 年建築の庄原市斎場、次が昭和 61 年建築の西城斎苑、一番新しいのが平成 14 年建築の総領斎場となります。これは皆様にご意見をいただいて決めることですが、一気に 2 箇所にする 3 箇所にするということではなくて、修繕の発生することの多くなってくる古いものから年次的に解体撤去していくことになると思います。まず、庄原市斎場を整備して、再編の方向性によって各施設の廃止年度を決めることになっていくと思います。

野原委員長 ということになりますと、総領は平成 14 年建築ということで非常に新しいわけがございますので、十分将来性があるということになりますね。

事務局 総領は人口も少なく、庄原に近いということもあります。これは皆様のご意見を伺いながらになりますが、現実的に新しくても遅くまで残す必要もないかもしれないという可能性もあります。

野原委員長 とりあえず庄原市斎場が古くなっていて建替えの必要があるのは異論がないと思いますが、新しいものだからといって必ずしも遠い将来まで引き伸ばすのではなくて、再編で処理する部分は処理するということが可能であるということでございます。西城の方は古くなっておりますので、責任を持って廃止なら廃止として行政がやっていただくということです。ほかにいかがでしょうか。

野原委員長 そうしますと(2)の斎場再編の方向性については、パターン 3 ということで取りまとめte よろしいでしょうか。

<意義なしとの声>

野原委員長 当検討委員会としましてはパターン 3 ということで全体的な方向性を取りまとめたいと思います。なお具体的な新しく設置する庄原市斎場の炉数等については今後の議論を待ちたいと思います。

(3)その他

野原委員長 (3)その他に移りたいと思います。事務局、あるいは皆様から何かございませんでしょうか？

<意見なし>

5 次回開催日について

野原委員長 4の次回開催日ですが、事務局からお考えがありますか？

事務局 本日斎場再編の方向性について出させていただきました。これについて検討委員会としての意見書をまとめていただきたいと思います。1月の下旬あたりで次回を考えておりますので、今回の意見書そして庄原市斎場の整備計画についても議論いただきたいと思います。

野原委員長 第6回の再編整備検討委員会は1月の下旬を予定しているということで、委員の皆様方、大変お忙しいところだと思いますが、一つよろしくお願ひしたいと思います。

それと全体的な方向性は出ましたので、取りまとめていきたいと思います。庄原市の考えも含めて次回ご議論いただきたいと思います。本日は長時間ありがとうございました。全体の流れがつかめましたので非常によかったと思います。また、今後ともよろしくお願ひいたします。

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本議事録を作成し、議事録署名人が次に署名捺印する。

平成24年12月25日

議事録署名人 野原健一

議事録署名人 住田鉄也